

平成28年12月 6 日

釜石市議会議長 佐々木 義 昭 様

総務常任委員会
副委員長 大 林 正 英

総務常任委員会視察研修結果報告

1. 視察項目： (1) 行政評価について（香川県丸亀市）
(2) 定住促進施策について（岡山県笠岡市）
2. 視察日程： 平成28年11月15日（火）～17日（木）
3. 参 加 者： 菊池秀明委員長、大林正英副委員長、松坂喜史委員、海老原正人委員、
菊池孝委員、細田孝子委員
随 行： 総合政策課長補佐 佐野正治
議会事務局次長 佐々木敏之

4. 視察概要

4.1 香川県丸亀市

- (1) 目 的：行政評価について
- (2) 日 時：平成28年11月16日 午前9時30分～午前11時00分
- (3) 視察先対応者：松永恭二副議長
江渕貴彦（議会事務局）
志村芳隆（市長公室政策課総括担当長）
宇野大志郎（市長公室政策課）
- (4) 配布資料：丸亀市行政評価の経緯
丸亀市行政評価（外部評価）報告書 平成28年度
丸亀市行政評価（内部評価）報告書 平成28年度
議会概要 平成28年度、ほか

○ 丸亀市概要

香川県の海岸線側ほぼ中央部に位置し、北は瀬戸内海国立公園、南は讃岐山脈に連なる山々、陸地部は讃岐平野の一部で平坦な田園地帯が広がる。年平均気温が約16度、冬季でも概ね 5度以上あり、また年間降水量は約 1,000mm であるが、降水日数が年平均 100日と温暖少雨の瀬戸内海特有の気候。平成の大合併により平成17年3月22日に旧丸亀市、旧綾歌町（あやうた）、旧飯山町（はんざん）が合併して発足。

・人口 113,586人、49,272世帯（平成28年4月1日現在）

- ・一般会計 408億円、特別会計 296億、企業会計 45億(水道事業)、784億(競艇事業)
- ・行政評価は平成19年度より作業を開始（同年度に定めた総合計画の実施と同期。現状の評価構成は平成25年度から確定している。）

(5) 主な質疑と所感

- Q) 評価結果の議会での活用は。(予算や決算審議、議会から廃止が求めるようなケース等)
- A) 毎年9月の段階で決算委員会を完了させるが、行政評価はその後の議会で報告している。予算議会(3月)においても評価結果に基づいて事業が指摘されたケースはなく、あくまで参考として利用するに留められる(評価結果の活用は課題としては認識しているが)。過去には評価結果を受けて敬老(金婚)祝金の廃止はあった。首長の思考に合わないような事例は発生してきていない。
- Q) 一般公募している評価委員について。
- A) 2/8人が外部有識者、任期は2年。委員構成については市条例に基づいて選定している。多数の応募が有るわけではなく、公募時に用意して頂く作文を参考に選考委員会にて人選している。
- Q) 評価作業の工数は。
- A) 平成28年度の実績では、外部評価は委員会を4回実施。行政評価は開始時期から総合計画に組み込まれたものであって、通常業務として対応している。市長公室政策課の4名にて対応しており、およそ業務時間の 2~3割程の負担。
- Q) 現場職員の意識改革になっていたりしているか。
- A) 外部評価の対象が毎年変わり、マンネリ化している事業の見直しには有効。
- Q) 行政評価の今後の見直しは。
- A) 今年度は総合計画の見直しのタイミングでもあり、評価を連動させるような検証は必要と認識している。

○ 所感

釜石市では公共施設の管理運営の適正水準を図る上でも、行政評価の導入が待たれている。既に10カ年近い実績を持たれている丸亀市から、決算及び予算計画における評価結果の利活用における課題を伺えたことを参考にしたい。

また、丸亀市には視察行程の都合で前日入りとなったが、その際(18:00頃)に市中心部にある商店街の殆どがシャッターを閉じていた。道路事情の整った町の行く末を案じずには居られなかった。



4.2 岡山県笠岡市

- (1) 目的：定住促進施策について
- (2) 日時：平成28年11月16日 午後3時00分～午後4時30分
- (3) 視察先対応者：原田てつよ副議長
高橋千恵子議会事務局次長、高橋辰徳主事
黒田英樹定住促進センター所長
- (4) 配布資料：行政視察資料（笠岡市定住促進センター）
笠岡市議会概要
市議会かさおか_No150
定住ガイドブック、ほか

○ 笠岡市概要

岡山県の南西部に位置し、西は広島県福山市と接する。温暖で雨が少なく平野が少ないため、干拓や埋め立てを行って土地を確保してきた歴史がある。平成2年3月に完成した笠岡湾干拓地（1,811ha）において畜産、野菜の露地栽培などを大規模に実施している。

また、市内には大きな河川もないため慢性的な水不足であったが、昭和47年に倉敷市を流れる高梁川からの導水が実現し、島しょ部を含む市内全域への水道水供給ができています。

観光面では瀬戸内海国立公園の一角をなす笠岡諸島を有し、天然記念物として指定されているカブトガニの繁殖地として調査研究のほか博物館も運営している。

- ・人口 50,897人、22,549世帯（平成28年4月1日現在）
- ・一般会計 227億、特別会計 163億、企業会計_18億(水道事業)、24億(病院事業)

(5) 主な質疑

Q) 定住促進センター設置の経緯について。

A) 平成18年度以降に、毎年500～800人近くの人口減少が進展していたため、平成20年4月に職員あてに定住促進に関する施策の提案募集を行った。

- ・市長を本部長とする定住促進本部会議を設け、平成21年度に向けた重点事業を決定
- ・副市長直結の特命組織
- ・正職員3名、再雇用職員1名、職員 0B の嘱託職員1名、臨時職員(地域おこし協力隊)2名

Q) センターの取り組み事業は。

A) 住宅新築助成金、新婚世帯賃貸助成、若者会議、空き家バンク活用奨励金ほか。

Q) 予算措置における優遇は。

A) 一般会計の枠配分方式を前提としていたが、定住促進は別枠で設定した。

例－平成25年度の住宅新築助成98件（各件百万円の助成）。

Q) 定住促進事業の浸透度合いは。

A) 二年に一度の市民意識調査を行っており、状況確認をしている。

Q) 空き家の有効利用について。

A) 平成21年度からの実績は66件(うち賃貸49件、売買17件)。

岡山県主導で雇用対策事業の一環として空き家調査を実施した。(1800件ほどが市内に確認された)

所有者に物件登録の意向を確認したところ、手放したい(売却希望)が殆ど。逆に賃貸の希望者は3倍居る。

また、不動産事業者の取扱物件は対象としないことにして、賃料2～3万円/月ほど(敷金礼金無し)で設定している。(笠岡市も不動産の価格設定は高い模様)

家財処分の補助も空き家バンクへの登録を促すために実施している。

○ 所感

釜石市における定住促進の取り組みの起点は、経済の拡大期待が得られない中で、人口減少を体感していた最中で受けた震災であり、そこからの復興という特段の困難な状況下で事業実施が求められることである。笠岡市における定住促進にかける各種施策の活動経緯や実績について、主な質疑で記したような知見を研修できたことは大いに参考になった。視察した議員の一人として市の総合戦略の先進性を、他市へ向けて示すことができるような成果を示せるよう鋭意精進してまいりたい。

また、釜石市の世界遺産登録申請にご助力いただいた加藤康子氏（笠岡市出身の元衆議院議員、加藤六月氏のご息女）を介した遺産登録を目指されていると伺った。成就されることを願いたい。



以上